能登島
のとじま
未来への誓い

のとじまの１年

令和元年度 能登島地域づくり協議会 活動報告書

2019

会長あいさつ

住民の皆様におかれましては、能登島地域づくり協議会の事業にご理解・ご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

令和元年（2019年）は、天皇陛下即位の礼、2020東京オリンピックのカウントダウンと、国を上げて祝賀ムード一色の年でありましたが、令和２年に入ると一転、新型コロナウイルス感染症がわが国のみならず世界を激震させる事態となりました。能登島地域づくり協議会としても３密を避けるため、総会の書面評決、地区運動会の中止、ロードレース大会の中止と、大変厳しい対応を取らざるをえない状況となりました。

このような中ではありますが、明るいニュースとして、令和２年１月にはふるさとづくり大賞（総務大臣表彰）、２月には優良公民館表彰（文部科学大臣表彰）の表彰を受け、ダブル受賞となりました。これは、これまで能登島の地域づくりにご尽力されました地域の皆様方のお陰と、心より感謝申し上げる次第です。

さて、令和２年４月より、能登島地域づくり協議会が能登島地区コミュニティセンターの指定管理者となることを受けて、令和元年度はそれに向けての会議や準備、七尾市との協議を進めてまいりました。不安はありながらもなんとか新体制がスタートし、変革の年となるべくところでしたが、新型コロナウイルスに出鼻をくじかれてしまいました。

能登島地域づくり協議会としては、少子高齢化が進む中、この現実にどう対応して行くかが、一番大きな問題だと考えます。高齢者と言われる方々は、今まで歩んで来た知恵と経験があります。この豊富な知恵と経験をどう地域づくりに生かして頂くかが大きなポイントだと思う次第です。この事を踏まえ、能登島の住民全員の気持ちを一つにして、より良い環境と安心・安全に住める能登島にしてゆきたいと思います。

今後とも皆様方のご尽力、ご協力をよろしくお願いいたします。

能登島地域づくり協議会
会長　米田 晴行

目次

会長あいさつ ・・・・・・・・ 1

運営組織図、部会構成 ・・・・・ 2

令和元年度カレンダー ・・・・・ 3

将来ビジョン・令和元年度収支決算・・ 4

《活動報告》

総務部会 ・・・・・・・・ 5

環境防災部会 ・・・・・・・・ 7

生活福祉部会 ・・・・・・・・ 8

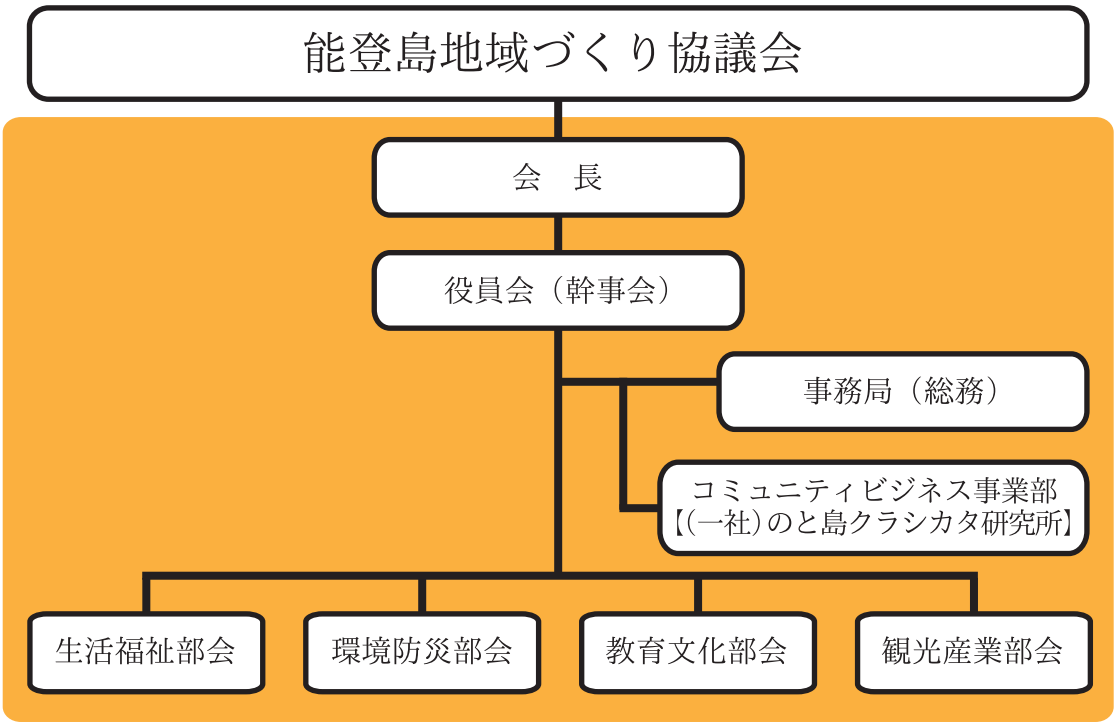
教育文化部会 ・・・・・・・・10

観光産業部会 ・・・・・・・・11

コミュニティビジネス事業部・・・・・12

指定管理制度の導入に向けて能登島のいま ・・・・・14

運営組織図



部会構成

◆総務部会

事業内容：
各部会の連絡調整及び広報、その他地域活性化に関すること

構成メンバー：
地域づくり協議会幹事会・事務局

◆教育文化部会

事業内容：
社会教育及び文化振興に関すること

構成メンバー：
教育委員、小学校、中学校、幼保園、文化協会能登島支部、社会教育委員、PTA、女性団体協議会、青年団、ボランティア団体、図書館評議員

◆生活福祉部会

事業内容：
地域福祉及び健康づくりに関すること

構成メンバー：
町会連合会、女性団体連絡協議会、民生児童委員協議会、地域福祉推進員、老人クラブ連合会、生活介護支援サポーター、介護医療関係

◆観光産業部会

事業内容：
地域産業の振興に関すること

構成メンバー：
観光協会、農業振興協議会、能登鹿北商工会能登島支所、能登島交通、能登島ペスカグリネットワーク

◆環境防災部会

事業内容：
地域の防災・交通防犯、環境保全に関すること

構成メンバー：
町会連合会、女性団体協議会、老人クラブ連合会、民生児童委員協議会、地域福祉推進員、防災士、消防団、介護医療関係

◆コミュニティビジネス事業部会

事業内容：
収益を伴う地域貢献事業に関すること

構成メンバー：
（一社）のと島クラシカタ研究所

令和元年度　カレンダー

2019.4 月　町会連合会　総会
地域づくり協議会 幹事会
民生児童委員定例会（以降 毎月開催）
能登島地区運動会 実行委員会
観光協会 第 1 回役員会

5 月　地区社協 総会
能登島観光協会 総会
地域づくり協議会 総会
ペスカグリネットワーク 総会
交通安全祈願祭
第 4 回 壮年ソフトボール大会
コミセン周辺環境整備
ロードレース大会 実行委員会
第 15 回 能登島地区運動会

6 月　能登島こども会議 準備会
生活福祉部会 部会会議
AED 講習会
第 11 回 青年ゴルフ大会
のとじま豊稔会 総会
第 12 回 卓球大会
生活福祉推進委員 定例会
ロードレース大会 実行委員会
町会連合会 定例会
教育文化部会 部会会議
まあそいマルシェ（～ 10 月まで）

7 月　2019 能登島ロードレース大会
能登島子ども会議
民児協・推進員研修会
ひょっこり能登島見守り隊 出発式・総会
夏休み宿題おたすけ会
ロードレース実行委員会
まあそいカフェ オープン
教育旅行 受入（～ 10 月まで）
地域づくり協議会 幹事会
こどもキャンプ
防災・減災研修会

8 月　第 3 回 壮年グラウンドゴルフ大会
能登島地区戦没者追悼法要
ひょっこり能登島見守り隊 ナイトパトロール
まあそいマルシェ夏祭り
第 39 回 ソフトテニス大会
ドラム缶風呂体験
地区社協 臨時総会
能登島ふれあいまつり 実行委員会

9 月　ペスカグリネットワーク 定例会
視察研修受入（県議会）
ミステリーバスツアー
見守り隊 祭礼パトロール（向田・鰀目）
地域づくり協議会 幹事会
町会連合会 第 2 回 定例会
移動販売 (須曽・半浦)
ふれあいまつり飲食ブース出店者会議

10 月　移動販売 (別所・佐波・向田)
能登島子ども会議 バンブーカフェ WS
コミセン周辺環境整備
インバウンド研修会
能登島ふれあいまつり 実行委員会
教育旅行反省会
第 61 回 駅伝競走大会
富山市 視察研修

11 月　第 4 回わいわい能登島ふれあいまつり
第 5 回 町民ゴルフ大会
能登島ふれあいまつり 実行委員会
移動販売 (祖母ヶ浦・八ヶ崎・鰀目・長崎)
第 4 回 壮年卓球大会
インバウンド研修会
観光協会 第 2 回役員会
のとじま豊稔会 岐阜県視察研修
第 7 回 ボウリング大会
移動販売 (二穴・日出ヶ島・野崎)

12 月　第 45 回 バレーボール大会
令和元年度地区体育大会 表彰式
ペスカグリネットワーク 定例会
移動販売 (田尻・百万石・閨)
ロードレース実行委員会
地域づくり協議会 幹事会
観光協会 教育旅行反省会
イルカ保護委員会 総会
歳末高齢者見守り活動
ごっつおまつり出店者会議
町会連合会　役員会
冬休み 宿題おたすけ会

2020.1 月　七尾市成人式・地区祝賀会
観光協会 県知事表敬訪問
移動販売会議
老人クラブ スカットボール大会
インバウンド研修会
ふるさとづくり大賞　表彰式（東京都）
イルカ委員会ワークショップ

2 月　清酒『能登島』 奉納神事
第 12 回 能登島ごっつおまつり
首都圏修学旅行商談会
優良公民館表彰　表彰式（東京都）
地域福祉懇談会
地域づくり協議会　市長表敬

3 月　環境美化ゴミ拾い (万葉マラソンコース）
ペスカグリネットワーク 定例会
買い物・移動問題研修会
地域づくり協議会 幹事会
町会連合会　臨時総会

将来ビジョン

島の恵みを味わい続ける

島の絆を深める

能登島の暮らしを自慢する

アクションプランから３年経過

平成 30 年度でアクションプランを策定してから 3 ヵ年となることから、平成 31 年度に向けてこれまでの取組の総括と今後の方向性についての話し合いを部会ごとに行いました。そこで挙がった意見を紹介します。

◆生活福祉部会

- 配食事業を持続可能に
- 高齢者世帯台帳などの福祉データの適正な活用
- 住民ニーズの調査

◆教育文化部会

- こども会議
- 能登島の人財バンク
- 壮年世代を巻き込んだ活動
- 他部会との連携強化

◆環境防災部会

- 耕作放棄地 獣害対策・景観維持
- 消防団と町会との連携強化
- 地区防災計画の推進

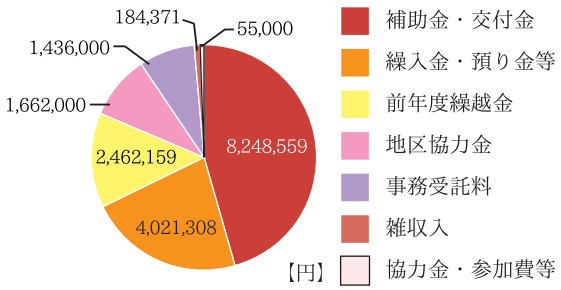
◆観光産業部会

- 体制整備
- データに基づいたマーケティングとプロモーション
- 新規事業展開
- 教育旅行・イベント

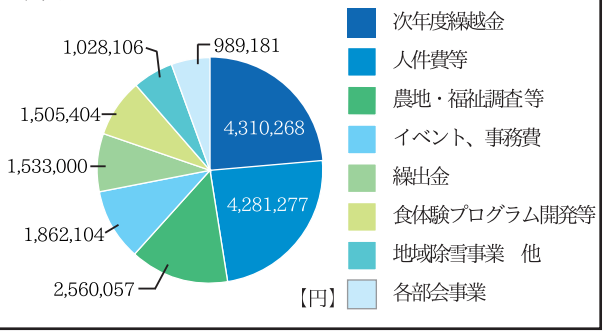
令和元年度 収支決算

◆公益事業会計

歳入　総額 18,069,397 円

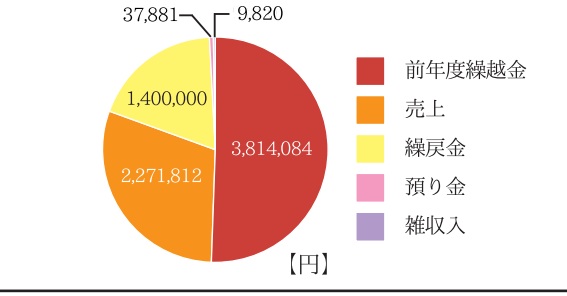


歳出　総額 18,069,397 円

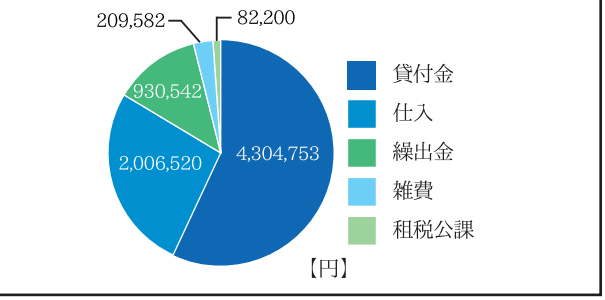


◆収益事業会計

歳入　総額 7,533,597 円



歳出　総額 7,533,597 円



総務部会

ふるさとづくり大賞・優良公民館賞

この度、能登島地域づくり協議会が総務省の「令和元年度ふるさとづくり大賞」および文部科学省の「第 72 回優良公民館表彰」を共に受賞し、ダブル受賞となりました。

ふるさとづくり大賞（総務大臣表彰）は、豊かで活力ある地域社会をつくるため、ふるさとをより良くしようと活動する個人・団体に送られます。

八ヶ崎海水浴場で期間限定でオープンしている「まあそいカフェ」の運営や、清酒「能登島」を仕込む際にできる米粉と能登島長崎の海塩を使用したお土産「のとじまバトンケーキ」の開発などのコミュニティビジネスの取組、「地域のことは地域で」自治を進めるための協議会の体制整備の取組などが認められての受賞でした。

優良公民館表彰（文部科学大臣表彰）は、公民館等の社会教育活動を行う施設で、特に工夫をこらして地域の学習活動に大きく貢献しているとして、全国から 75 館が表彰されました。能登島小学校と連携して行っている「能登島こども会議」が特色ある活動として認められました。

上：優良公民館表彰　下：ふるさとづくり大賞表彰

七尾市長 表敬訪問

地域づくり協議会の米田晴行会長が 2 月 26 日（水）に七尾市長を表敬訪問し、受賞を報告しました。

米田会長が「これまで一緒に活動してきた地域の皆さんのおかげ。これを励みにさらに頑張っていきたい」と話すと、市長は「本当に喜ばしいことで、これからも他の地域の良いお手本となって欲しい」と激励のお言葉をいただきました。

中日新聞　2020年（令和2年）2月27日（木曜日）

地道な取り組み 大賞に輝く

七尾の2団体、市長に報告

七尾市のたかしな地区活性化協議会が地域づくりの活動を表彰する「地域再生大賞」を受賞し、能登島地域づくり協議会は総務省のふるさとづくり大賞と文部科学省の優良公民館表彰を受けた。市内の団体で、地域再生大賞とふるさとづくり大賞の受賞は初めて。二団体の代表者が二十六日、市役所を訪れ、不嶋豊和市長に活動を報告し、さらなる活躍を誓った。（中川紘希）

移住支援で 地域再生大賞

地域再生大賞の受賞を報告するたかしな地区活性化協議会の宮崎吉春会長（右）＝七尾市役所で

たかしな活性化協議会

たかしな地区活性化協議会は、共同通信と地方新聞が地域活性化に取り組む団体を支援するため実施している「地域再生大賞」で、優秀賞を受賞した。

大賞全体で全国五十団体、優秀賞は三十九団体が選ばれている。同協議会は、町会行事や風習などを移住希望者向けにまとめた「集落の教科書」を作ったほか、期間限定で移住できる移住体験施設も運営している。旧高階小学校の校舎を生かしクリスマスイルミネーションなどの多彩なイベントも企画し、移住者増加につなげている。

宮崎吉春会長は「海も山もなく何もない地域だけど人情があり頑張っている。今は住める空き家がないほど移住者に人気。今後も頑張りたい」と意気込んだ。

観光事業など 総務大臣表彰

文科省の優良公民館表彰も

能登島地域づくり協議会

能登島地域づくり協議会は、全国二十二団体と個人五人が表彰された「ふるさとづくり大賞」で団体表彰（総務大臣表彰）と、七十五施設が対象の文部科学省の優良公民館表彰を受けた。

日本酒「能登島」の開発販売や地元食材がそろう市場「まあそいマルシェ」の企画運営、観光体験事業などを進め、地域内での経済循環を生み財源確保にも努めていることが評価された。地元小学生が地域課題の解決策を考える「のとじま子ども会議」の発案も優秀な活動として認められた。

米田晴行会長は「多くの関係者の努力が報われ、名誉なこと。今回の受賞に終わらず精進して発展のために尽くしたい」とあいさつした。

二つの大臣表彰を受けた能登島地域づくり協議会の米田晴行会長（中）と不嶋豊和市長（右）＝七尾市役所で

能登島地区運動会

５月 26 日(日)、能登島小学校グラウンドで能登島地区運動会を開催しました！

午前中は小学校の海の子運動会、午後から地区運動会と同日開催で、今年も天気に恵まれ、運動会日和でした。

オープニングイベントでは、新元号の「令和」を参加者の皆さんで人文字を作り、ドローンで撮影しました。

能登島ロードレース 2019

７月７日 (日)、第 22 回となる能登島ロードレース大会を開催しました。全国から約 1,300 人のランナーが参加し、東部地区の海岸線を景色を楽しみながら走りました。

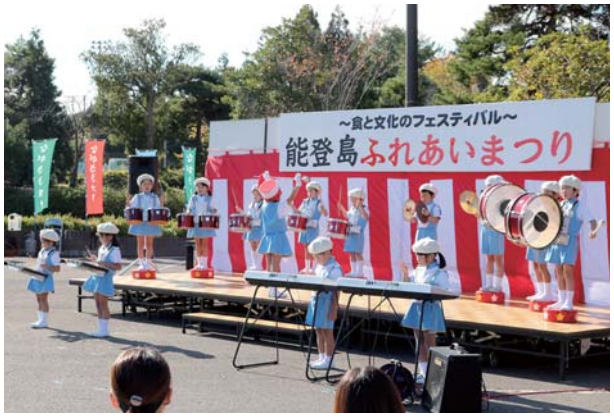
今年度も、地域づくり協議会中心に七尾市役所の皆さんや地域の皆さんにボランティアスタッフとして駐車場・走路員・受付・給水・ゴールアシスト等で力をお借りしました。ご協力本当にありがとうございました。

わいわい能登島ふれあいまつり

能登島の住民が一丸となって開催できるお祭りをと始まった「ふれあいまつり」も４回を数えることとなりました。

今年は、小学校の子ども会議で提案・企画した竹の食器を使った「バンブーカフェ」も開店し、とても賑わっていました。防災啓発コーナーでは、起震車が来られなかったため、救急車の車内見学体験をお願いし、能登島分遣署の方々が道具の使い方や機械について説明してくれ、子ども達は普段見る機会のない救急車の中を興味津々に見ていました。

今年も最後に会場にいる全員でバルーンリリースを行い、一体感を持って閉会となりました。



環境防災部会

交通安全祈願祭

5月10日（金）、能登島地区の交通安全祈願祭を開催し、島内の各種団体から約30人が無事故を祈り出席頂きました。

式では主催者を代表して地域づくり協議会の米田晴行会長が挨拶し、七尾警察署をはじめ各団体の長が玉串を捧げました。

祈願祭の最後には地元の手芸クラブ「こでまりの会」が作成したイルカの交通安全マスコットを参加者に配布しました。

防災・減災研修会

7月31日（水）、講師に日本財団災害対策チームの黒澤司さんを迎え、阪神淡路大震災、東日本大震災等での炊き出し、避難所運営等の支援活動の講義を受けました。

避難所の運営では、地域の役割をはっきりさせるためマニュアルを作成しておくことが大事で、特に女性の方の役割が大きいとのことで、女性会の方々も真剣にメモを取っていました。

参加者から『津波注意報が発令された際に近所の高齢者を避難させるか判断がつかなかった』との意見があり、「迷ったら行動を起こせばいい。避難したことで高齢者が風邪をひくか、避難しなくて亡くなるか、判断は簡単」との回答があり、防災の自己啓発と地域防災の大切さを勉強した有意義な講義でした。

環境整備事業

毎年2回、地域づくり協議会に所属する各団体と施設利用者約40名にご協力いただいて、コミュニティセンター周辺の草刈りや樹木剪定、花壇の草むしりやゴミ拾いなど行っています。

豊稔会 視察研修

11月21・22日、のとじま豊稔会のメンバー13名で、岐阜県中山間事業研究所へ視察研修に行きました。

この研究所は、飛騨の恵まれた自然環境を活かして、飛騨コシヒカリを「日本一の美味しいお米」にするため、「土づくり、植え付け株数、早期中干し、穂肥の加減、落水時期」など高品質・良食味米の維持向上のための10か条を設定し、日々研究しています。その結果、平成30年度食味分析鑑定コンクールでは一番の入賞点数を獲得し、近年各方面から高い評価も得ているとの事でした。

今後の課題として安価、生産者の協力などが挙げられていました。お米のほかに、ほうれん草の施肥改善、夏秋ナスの独立袋栽培での高収量など中山間地ならではの研究を行っていました。

美味しいお米作りに大いに参考になった研修会でした。

生活福祉部会

生活支援ニーズアンケート調査

9月12日（木）に行われた民生児童委員の定例会において、8月より配布していた生活支援ニーズアンケートの回収作業をすべて終えました。

アンケートの対象者794名に対して648名の回答をいただき、8割を超える回収率となりました。

データの入力作業もすでに終了しており、今後はデータを分析して資料を作成し、関係者への周知と今後の事業計画づくりを進めます。

新聞　R1 7/29　北國

高齢者の暮らし支えます

買い出し、掃除…　独自のサービス

能登島地域づくり協

七尾市能登島地域づくり協議会は、高齢者の暮らしを支える独自の福祉サービスの提供を始める。買い物代行や移動手段の確保など、行政の手が届かない細かな支援に取り組む。ニーズを把握するため、8月10日からアンケートを実施し、「島民の、島民による、島民のための」地域づくりを目指す。

3月末現在、能登島の人口は2597人。このうち65歳以上は1030人で、全体の約4割を占める。一方で、若者世代は減少の一途をたどっており、少子高齢化が著しい。

島内では日用品を購入できる店がなく、公共交通も充実していないことから移動には車が必須で、島民が持続的に暮らしていくためには、地域ぐるみで互いに支え合う仕組みづくりが必要と判断した。

アンケートは70歳以上に加え、65～69歳で1人暮らしする住民を対象に行う。買い出しや病院の受診、自宅の掃除、除雪など10項目について必要な支援を問う。配食や買い物代行のサービスがあった場合、利用したいと思う金額も尋ねる。

来月から要望調査

8月末まで民生委員児童委員と地域福祉推進員が調査し、9月に集計する。結果から住民が必要とする福祉サービスのうち、対応可能なものを協議し、早ければ来年から提供を始める。

七尾市によると、地域づくり協議会によるこうした取り組みは市内では初めて。同協議会生活福祉部会長で、能登島地区社会福祉協議会長の桂撤男市議は「地域ぐるみで助け合って、何歳になっても暮らしやすい能登島をつくっていきたい」と話した。

R1 9/16　北國　國　新　聞

住民組織が移動販売　試験的に

能登島　26日から

買い物難民救おう

売れ筋など調査

高齢化が進む一方、日用品が買える店がコンビニエンスストア1店舗のみという能登島の「買い物難民」を救おうと、住民組織「七尾市能登島地域づくり協議会」が26日から、島内で移動販売サービスを試験的に行う。12月まで1町会当たり1、2回、商品を積んだワゴン車が島内を回る。利用の多寡など内容次第で、来年以降の本格実施への移行を検討する。

能登島には8月末現在、約990世帯に約2500人が暮らす。うち65歳以上は約千人とされ、高齢化率は年々上昇傾向にある。

島内には水族館や民宿など観光関連の施設は多い半面、生鮮食品や日用品を扱う店はコンビニしかなく、能登島大橋を渡って和倉温泉などのスーパーで日常の買い物をする人が多い。スーパーや個人商店など島外の民間事業者による移動販売も行われているが、全島をカバーするのは難しいとされる。

島内は路線バスなども少なく、とりわけシニア世代のみの世帯は買い物に不自由しているという。協議会が8月に住民対象に行ったアンケートでは、移動販売の充実を求める意見が多く寄せられた。

島内には20町会あり、協議会による移動販売サービスの試験実施では、ワゴン車に調味料や総菜、菓子、洗剤などを積み込み、各町会の集会所前などで販売する計画だ。住民への周知法などの課題を探りながら、売れ筋の商品や住民のニーズなども調べ、本格実施の際の参考にする。

初回の26日は須曽町会と半浦町会を回る。日程や販売場所の詳細は、各町内会長を通じてチラシを配布して周知する。協議会の原田一則事務局長は「高齢化が進む中、移動販売サービスの重要性は増すはず。民間の事業者とも協力しながら、島内の買い物事情の改善を図りたい」と話した。

移動販売の計画を練る協議会メンバー＝七尾市の能登島地区コミュニティセンター

能登島で個人商店が行う移動販売サービス。住民からはサービスの充実を求める声が上がる

話し相手の役割も期待　金大・眞鍋教授（地域社会学）

金大地域創造学類の眞鍋知子教授（地域社会学）は「買い物難民は会話難民」という名言がある。過疎地における買い物ニーズを満たすのはもちろん、話し相手を求める住民の要望にも応えられるのではないか」とし、協議会によるサービスが交流の機能を持つことに期待を寄せた。

眞鍋教授によると、新潟県では、地域のお年寄りたちが引きこもりの青年による移動販売を心待ちにし、おしゃべりが長引いた結果、ワゴンが増便されたケースもある。

継続性が課題となるが、眞鍋教授は能美市商工会女性部有志による取り組みなど、好評を得ている移動販売の例を挙げ「ニーズを見て臨機応変に対応することが大事だ」と指摘した。

移動販売の試験実施

島内の買い物ニーズの調査のため、地域づくり協議会による移動販売の試験販売を開始しました。

今回の試験販売は、アンケートの結果も踏まえて、特に買い物支援のニーズ調査を目的としています。すでに島内で販売を行っている民間事業者の方もおり、今後はそれぞれ協力を図りお互いを補完しながら、困っている方の支援のためにどんな方法が良いかを検討してゆきます。

國　新　聞　R1 9/27　北國

能登島移動販売「助かる」

協議会が試行開始

住民、継続願う

塩、砂糖は完売

高齢化が進み、商店が減った七尾市の能登島で26日、住民でつくる「能登島地域づくり協議会」による移動販売が始まった。12月までの試行で、日用品や調味料、食品を積んだワゴン車が、初日は須曽町会と半浦町会を回った。予想以上の売れ行きで急きょ補充した商品もあり、住民からは「助かる」「品物を選ぶのは楽しい」と継続を求める声が上がった。

ワゴン車には、総菜、市指定のごみ袋や洗剤など110点が積まれた。一人暮らしのお年寄りでも食べきれるように、パックに小分けしたポテトサラダ、きんぴらごぼうなどの総菜が100円と手頃な価格で並んだ。

須曽町会では、住民の列ができ、塩や砂糖が完売した。協議会の菊地明暢さんは「まさかこんなに売れるとは思わなかった」と驚いた表情を見せた。

普段は夫の運転で買い物をしている能登島須曽町の原田美津枝さん(83)は「値段が安くて便利。お父さんがいつまで運転できるか分からないし、これからも続けてほしい」と期待を寄せた。

利用者からは「缶コーヒーではなく、自分でドリップするコーヒーも積んでほしい」といった注文も寄せられた。協議会は要望にあった品ぞろえを検討する。

能登島では現在、日用品を買える場所がコンビニ1店舗のみで、協議会は「買い物弱者」を救おうと移動販売を試行した。12月まで、島内の20町会を月に1度回り、来年度以降も事業として継続できるか検討する。

移動販売で並んだ日用品を買い求める住民＝七尾市能登島須曽町

民生委員・福祉推進委員 合同研修会

７月 12 日（金）、生活福祉部会の合同研修会がコミュニティセンターで行われました。

８月の「生活支援ニーズアンケート調査」実施のため、民生児童委員と地域福祉推進員の皆さんでアンケート調査の概要について最終確認を行いました。

33 名が出席し、アンケートの内容のほか地域の福祉・防災のあり方について活発な意見交換が行われました。

買い物・交通問題研修会

３月 10 日（水）に買い物・交通問題に関する研修会を開催し、地域づくり協議会の生活福祉部会を中心に、町会長、民生児童委員、地域福祉推進員などが参加しました。

「ＮＰＯ法人全国移動ネット」副理事長の河崎民子氏による講演で、買い物環境の悪化による影響として、①移動距離が増えて転倒などのリスクが増えること、②食品の多様性がなくなって低栄養化になること、③外出しなくなることで生きがい喪失につながることが挙げられました。

また、これから能登島で路線バスが維持できなくなると、行政が運営するコミュニティバスに変わっていく可能性があります。まだ地域に路線バスがある間に、「住民が乗って支えて維持する」意識を持つことが大切だということでした。

業者委託販売

約半年間かけて各集落をまわり、協議会主体で移動販売を行ってきましたが、継続的に買い物支援を行っていくため、民間の事業者と協力して販売体制をつくることとなりました。

はじめに、２月中の約１か月間委託事業として、協力を得られた「お届けショップ瀬戸」さんと「まんぷく丸」さんの２者に能登島のルートを周っていただきました。需要が見込まれるルートを販売ルートとして組み入れます。これからは状況を見て地域の要望も取り入れながら、協議会と事業者が連携して買い物支援を行っていきます。

↑まんぷく丸の様子

地域福祉懇談会

２月 26 日（水）、コミュニティセンターで能登島地区地域福祉懇談会が開催されました。

約 50 名が参加して、ワークショップ形式で地域の困りごとや心配ごとについて意見を出し合いました。

参加者はグループで、付箋に自分が思う「困りごと」を書いて発表しました。「車が運転できなくなった後が心配」「イノシシの被害がひどくて困る」「親の介護が必要になったらどうなるか不安」など、多様な意見が出されました。

教育文化部会

のとじま子ども会議

小学校と共同で実施している能登島こども会議も今年で４回目となりました。この事業では、能登島の里山里海を守ってゆくために子ども達がアイディアを考えて「こども会議」で発表します。投票で１位となったアイディアは、秋のふれあいまつりで出店・展示・発表などの形で実現します。

今年は５・６年生合同の全８グループが発表し、「能登島産イノシシラーメン」「竹イカダ体験」などさまざまなアイディアが出ましたが、投票により、竹の食器で地域の食材を使ったデザートを提供する「バンブーカフェ」に決まりました。

10 月には、向田の山から切り出した竹で食器づくりをしました。竹のコップや竹のお皿、竹の箸など 50 セット以上を作成しました。また、地域の食材を使って「フルーツポンチ」や「白玉デザート」などを試作して、竹の食器に盛り付けて試食会を行いました。

ふれあいまつりに出店すると、元気な声掛けにお客さんが集まって盛況となり、午前中で無事に完売しました。

↑メニュー試作

↑竹食器づくり

↑ふれあいまつりで出店

宿題おたすけ会

コミュニティセンターが地域の拠点施設として親しみを持ってもらえ、世代間交流にもなればと、生活福祉部会と教育文化部会の共催で「宿題おたすけ会」を開催し３年が経ちました。持ち寄って宿題を一緒にしたり、皆でカレーライスを食べたりするのが楽しいようで、毎回約 15 名が参加してくれています。

ミステリーバス遠足

９月８日（日）、子供たち 17 人と「行き先秘密のミステリーバス遠足」に行ってきました。

今回は奥能登方面へ向かい、能登町にある自然体験施設「ケロンの小さな村」と輪島市の白米千枚田に行ってきました。

「ケロンの小さな村」は、自然がいっぱいでとても大きな施設で、川辺で水遊びや遊具で遊んだり、ピザ作り体験もさせてもらったり、山に登り、頂上の広場で遊んでいました。

千枚田では、「稲刈りまだしてないんやね」と子ども達が話していたのを聞き、能登島の子らしい発言だと思いました。

子供たちもとても楽しんでいたようでよかったです。

地区体育大会

今年度は、青年の部の大会数が４つと少なかったですが、毎年各地区の青年団の皆さんが声を掛け合って沢山の人に参加してもらい、大会は盛り上がっていました。

40 歳以上が参加する壮年の部の大会でも、旧４校下で開催しています。大会ごとに毎回白熱した試合を繰り広げていました。

七尾市成人式・地区祝賀会

１月 12 日(日)、令和２年七尾市成人式が七尾市文化ホールで盛大に開催され、能登島地区からは 23 名が参加しました。

地区祝賀会では、小学６年生の時にお世話になった恩師をお招きし、お祝いのお言葉を頂きました。乾杯の後、当時の思い出話に花を咲かせ、抽選会をしたり、能登香島中学校保護者の合唱団 WISH の皆さんが歌でお祝いしてくれました。

観光産業部会

能登島ごっつおまつり

２月２日 (日)、ひょっこり温泉島の湯駐車場内にて『第 12 回能登島ごっつおまつり』を開催致しました。

今年も天候に恵まれ、恒例の鱈汁・ふぐ汁ブースは開催時間前から長蛇の列で浜焼きブースも場所取り合戦と沢山の人で大盛況でした！

能登島バーガーも安定の行列。おばちゃん達の美味しいごっつおは売切れ続出と昨年以上に盛り上がったイベントとなりました。

教育旅行

今年度の大きな動きとしては、関東方面からの修学旅行生の増加でした。北陸新幹線を利用した修学旅行向けの大きな割引率を適用する誘致プロジェクトが始まり、大々的に地元メディアも報じる中、東京・千葉・埼玉の中学校の新規受入がスタートしました。

初めての海の体験、初めての民宿泊、食事など、能登島を存分に味わっていただき、１日と短い日程でしたが中身の濃いおもてなしが出来たのではないかと思います。

来年度は次の学年の生徒がまた能登島へやってきます。この教育旅行を通じて、近い将来、１人でも多くの生徒が能登島を思い出し、帰って来てくれるよう努めたいです。

コミュニティビジネス事業部

こどもキャンプ

今年で10年目となる「夏休みのとじま子どもキャンプ」を7月下旬から8月初旬にかけて開催しました。

主に七尾の市街地や金沢などの都市部に住んでいる小学生を対象に、能登島の自然や文化を体験してもらうために毎年夏休みに行っています。キャンプは2泊3日で週の前半と後半に分けて、2週間で全4回行いました。

内容は回によって少しずつ違い、キャンプ場の芝生で竹を使って昔の遊びをしたり、海水浴場で生き物さがしをしたりして能登島を満喫します。夜は家族旅行村Weランドでテントに泊まって星空観察をしたり、民宿や一般のおうちに泊まらせてもらったりして、島の人のお話をたくさん聞きました。

お手伝いしていただいたみなさん、民泊で受け入れていただいたおうちの方々、ありがとうございました。

参加者はリピーターが半数以上で、1年生から毎年参加していたり、中学生になっても準スタッフとして参加している子もいて、「また来年も来たい！」と喜んで帰っていきます。

↑竹で釣り竿作り

能登島ペスカグリネットワーク

のとじまバトンケーキ 発売

能登島でとれた米粉や海塩を使ってできた新しいスイーツ「のとじまバトンケーキ」を販売しました。

パッケージの箱には能登島らしい海と田んぼの風景が映っており、能登島のきれいな景観とおいしい食がこの1箱で楽しめる、お土産を渡した人に能登島の魅力がバトンのように伝わっていってほしいという願いがこめられています。

この能登島が詰まったバトンケーキを能登島の皆さんに食べてほしいという思いから、能登島小学校、のとじま幼保園で贈呈式を行いました。

米田晴行会長から「のとじまバトンケーキ」を受け取る崎山優花さん＝七尾市の能登島小で

能登島食材でバトンケーキ

地域づくり協議会

地元小学校に贈る

七尾市能登島産の米粉と塩を使った新たな特産品のスティックケーキ「のとじまバトンケーキ」を地元の子どもたちや高齢者らに味わってもらおうと、能登島地域づくり協議会などが二十三日、能登島小学校の児童らにケーキを贈った。協議会の米田晴行会長らが同校を訪れ、サマースクールで登校していた児童会長の崎山優花さん（六年）にケーキを手渡した。ケーキを少し試食した崎山さんは「能登島産の塩やみそは知っているが、お菓子は初めて聞いた。米の味がしてふわふわした感触。児童みんなでおいしくいただきたい」と感謝。米田会長は「少しでも能登島のPRになれば何より。今後も能登島のブランド向上につながる物を販売し利益につなげていきたい」と話した。

全校児童百六人分を用意したほか、米田会長らは能登島のデイサービス施設なども訪れ、小学校分を含め計約四百個を配った。

バトンケーキの原料となっている米粉は、酒の製造過程で削られる副産物を再利用。海水から作った塩も使う。スティック型ケーキで六本入り八百十円（税込み）。商品を入れた六角形の箱には能登島の海と黄金色の稲穂が実る田んぼの写真が印刷されている。「能登島まあそい」のブランド商品として道の駅のとじま（同市能登島向田町）で販売。土産品としても定着が期待されている。（筆木奈美）

まあそいマルシェ

７月～10月の第４日曜日、道の駅のとじまで能登島の食べ物や雑貨品を集めて販売しました。

能登島に住む人々は昔から能登島の土地を耕していろんな恵みを土地から受け取っています。また、その能登島の土壌を拠点にして、能登島でいろいろな活動をしています。そんな能登島の人たちが一堂に集まって定期的にマルシェをしたら面白いんじゃないか、そこで新しい組み合わせが生まれてさらに住んでいる人たちに楽しんでもらえる何かが生まれるんじゃないか、そんな発想からこのマルシェはスタートしました。

毎月テーマを変えて、能登島の農家さんやお店さん、作家さんたちと能登島以外のゲスト出店者が集い出店します。ワークショップや体験などもあるので食べたり、飲んだりゆったりとした時間を過ごしていただけたらと思います。

まあそいマルシェ夏祭り

８月17日、八ヶ崎海水浴場内でまあそいマルシェ夏祭りを開催しました。

音楽の流れる中で浜辺の夕焼けを眺めながら、大人はビールを飲んだり、屋台の串焼きや焼きそばを食べたりしてゆっくりと時間を過ごし、子供は周りで走り回ってはしゃいだりと、とても楽しいイベントとなりました。まあそいカフェ店内では、アクセサリー店、外ではジャズコンサートと中身の濃い時間が過ごせました。

能登島の酒プロジェクト

「能登島の酒プロジェクト」とは、「耕作放棄地を減らすこと」「新たな特産品をつくること」「島の人に愛される酒をつくること」を目標に、島の生産者と協力し、能登島の酒米で日本酒をつくるプロジェクトです。

令和元年度から「のとじま島おこし団」が中心となって活動をしています。

島の酒プロジェクトが始まって５年目の令和元年度は、二穴、長崎、八ヶ崎、祖母ヶ浦、南、の５地区の生産者が合計１町４反の田んぼに酒米を作付けしました。

今年度は、収穫直前にイノシシの被害にあってしまったため、お酒にできるお米が少なくなってしまいました。前年度は天候不順、今年度はイノシシ被害と、思うようにお米ができない年が続きますが、それでもしっかりと育ってくれたお米たちがお酒になりました。今年度は、１升瓶約300本、４合瓶約750本の純米「能登島」が完成しました。

純米「能登島」は道の駅のとじまで販売しています。新型コロナウイルスの影響で道の駅が閉店していたことなどから、１升瓶、４合瓶ともにまだ在庫がありますので、ぜひお買い求めください。

指定管理制度の導入に向けて

指定管理制度の導入

七尾市の方針により、令和２年度から能登島地域づくり協議会が能登島地区コミュニティセンターの指定管理者になることとなりました。建物の設備維持や軽微な修繕などの管理を、七尾市からの指定管理料によって協議会が行います。また、施設の使用料などの収入を一部協議会の収益とすることができるようになります。

地域の皆様にとって利用方法が大きく変わることはありません。協議会が使用許可の権限を持つため、これまでより比較的自由に施設利用ができるようになります。その一方で、協議会事務局にとっては施設管理業務という負担が増えることになります。

新たな取組として、コミュニティーセンターや診療所を利用される方に向けて小さな購買部を設置しました。気軽に利用していただければと思います。

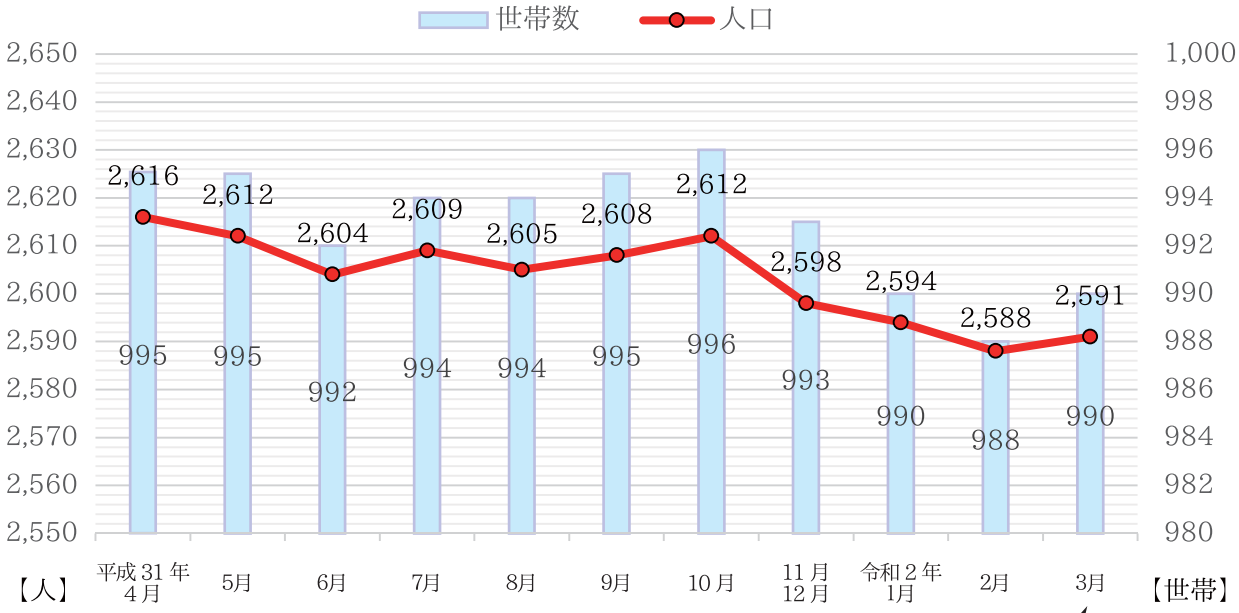
センター職員の協議会雇用化

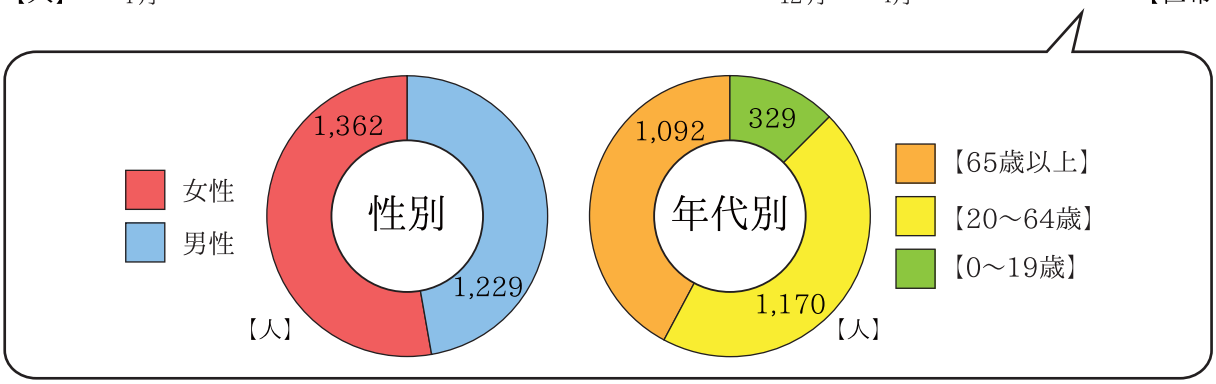
これまでコミュニティーセンター職員２名とセンター長（事務局長）は、七尾市が雇用する臨時職員・特別職でしたが、国の法制度の改定により、令和２年度からは地域づくり協議会が直接雇用することとなります。これに伴い、３名分の人件費見合分が新たに自由に配分可能な交付金として協議会に支給されます。

一方で、能登島地域づくり協議会ではこれまでもすでに職員１名（旧地域づくり専門員）を雇用しております。こちらも七尾市からの交付金を活用しておりました。この交付金は令和元年度で終了となりますが、先の新たな交付金と自己資金を活用して雇用を継続する予定です。

令和２年度からは、事務局長および事務局職員３名が地域づくり協議会職員として新たにスタートします。

能登島のいま





令和元年度 能登島地域づくり協議会 活動報告書
「のとじまの１年」

発行：能登島地域づくり協議会
石川県七尾市能登島向田町ろ部８番地１
能登島地区コミュニティセンター内